



2018年
5月31日
発行

「高尾の森」通信



—小下沢風景林の森づくり活動—

会員数：193名
(2018.4.30 現在)



「緑の季節」

緑の季節のタイトルは

「週末の街を脱け出すと……」と云う歌詞を想い浮かべる方もいるかもしれません。

森林の中の『緑』は本当に美しく、こころが洗われる気がするの

だれもがそれを求めているからかもしれません。

小下沢のフィールドは今日も『緑』です。

<http://JACtakao.net>

小下沢 NOTE 春

3月定例作業



チェーンソーの応援も大切です



今日も作業地へ向かう



今日も沢山、切りましたよ



作業を終えて満足な面々です



林道補修の力持ち、約2名!



作業後の寄り道もまた楽しいひと時です



ベースでのスープが絶品でした!

4月定例作業



元気な笑顔のA班です



おそろいでストレッチ



新緑の中で準備体操です



B班 作業小班の集合写真です



なぜか豪勢なアフターランチ



板当作業道も順調に進んでいます



今日も板当地区へ出発です!



そしてスープまであります

みどりとふれあうフェスティバル



花の季節

ミヤマキケマン

ニリンソウ

カキドオシ

ヤマブキ

カントウタンポポ



たくさんの方が訪れました



5月定例作業



雲ひとつない晴天でした



みんなでしっかり鎌研ぎです

帰ってきたらこの一杯



C班 今日の作業確認です

もくじ

| | |
|----------------|----|
| 小下沢 NOTE | 02 |
| 針広混交林化が進む小下沢の森 | 04 |
| 挿画「アオキ」 | 05 |
| 「高尾の森と生き物たち」展 | 06 |
| ハチ対策について | 07 |
| 定時総会のお知らせ | 08 |
| 法人紹介 | 08 |
| 幹事会報告 | 09 |
| 慈慶学園活動報告 | 10 |
| 私のお気に入り | 11 |
| 事務局からのお知らせ | 12 |

針広混交林化が進む 小下沢の森

2月2、23日「関東森林管理局 森林・林業技術等発表会」が行われました。高尾の森づくりの会の活動は17年を経過し、目標とする「針広混交林の造成」はどの程度進行しているかを調査、分析し、評価する機会と考え、参加しました。発表の要点を報告します。植栽地の現状を把握し今後の活動のあり方を考えるうえで参考になれば幸いです。
生態調査班 千谷 恵子

樹種ユニットの成林状況

下刈りを平成4年以降も継続し、侵入する自生木の除去を徹底した7年生～17年生のユニットについて残存本数、直径、樹高を計測し、ha当たりの材積の算出を行った。
1●各ユニット20本の残存状況を示したのが(表-1)である。

各ユニット20本の植樹木のうち15本以上残存するユニットは14%、10～14本が28%あり全体の75%は5本以上の生育が確認できた。なお、残存本数が多いほど平均樹高も高い傾向がある。

また、ユニット内の残存本数が10本以上あり、樹高が4m以上のものを成林とみなし、林間閉鎖が達成されたと判断されるユニットは46%、次いで、閉鎖までには至らないが一応成林とみなし得るユニットが25%あり、合計で71%が成林と判断された。途上にあるとみなされる20%は成長の遅い樹種であるが、それぞれのユニット空間が確保されていることから、近い将来成林に至ると考えられる。ユニット植樹により、多様な樹種による広葉樹の復元が可能であることが確認された。一方、残存本数が0、1本のユニットが9%あり、日照不足などの要因他、下刈り時の誤伐も一因と考えられる。

2●樹種による生育状況の格差

植樹後7～17年生までの初期成長で、1年間の平均成長量を調査した結果が(表-2)である。

①成長の非常に良いグループ(5㎡/年以上) ②これに次ぐグループ(5～1㎡/年) ③成長の遅いグループ(1㎡/年)に分けることができる。

特に①のグループのうち、17年生の直径、樹高などは(表-3)のように、カツラ、ウワミズザクラ、ヤマザクラは、2001年植栽地に隣接し同時期に植樹されたヒノキと比べ初期成長が極めて大きいことがわかる。これらの樹種は針広混交林造成の目的だけでなく、バイオマス資源として活用することも有望と考えられる。

表-1

植樹木残存率

| 残存率 | ユニット数 | 樹高m |
|--------|-------|------|
| 75%以上 | 14% | 9.8m |
| 50～75% | 28% | 5.4m |
| 25～50% | 33% | 4.8m |
| 0～25% | 25% | 3.2m |

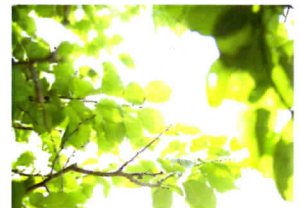


表-2

1年間の平均の成長量

| | 樹種 | 直径cm | 樹高m | 材積㎡ |
|--------|---------|------|-----|-----|
| グループ ① | カツラ | 1.0 | 1.0 | 7.7 |
| | ウワミズザクラ | 0.9 | 0.7 | 6.4 |
| グループ ② | トチノキ | 0.8 | 0.5 | 2.3 |
| | ミズキ | 0.6 | 0.6 | 0.6 |
| グループ ③ | イロハモミジ | 0.4 | 0.3 | 0.5 |
| | ケヤキ | 0.3 | 0.3 | 0.2 |
| | ヤマボウシ | 0.3 | 0.3 | 0.1 |

表-3

グループ①の最大値の例

| 樹種 | 年数 | 上層木平均 | | ha当たり |
|---------|----|-------|-----|-------|
| | | 直径cm | 樹高m | 材積㎡ |
| ヤマザクラ | 17 | 1.0 | 1.0 | 7.7 |
| カツラ | 17 | 0.9 | 0.7 | 6.4 |
| ウワミズザクラ | 17 | 0.8 | 0.5 | 2.3 |
| 対象区ヒノキ | 17 | 0.6 | 0.6 | 0.6 |

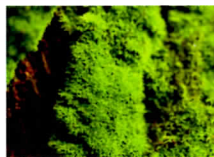


表-4

09B (植樹後9年)

| | |
|--|----------------------|
| 保残木 (ヒノキ2本) 43m ² /ha | |
| ヒノキ | 16, 11 |
| 植樹木 (2樹種10本が生育) 5m ² /ha | |
| ヤマグリ | 8, 6, 5, 4, 3 (2), 1 |
| オニグルミ | 6, 5, 4 |
| 自生木 (10樹種、19本が生育) 18m ² /ha | |
| ミズキ | 8, 5, 4 (2), 3 |
| ウワミズザクラ | 7, 5 |
| アカメガシワ | 6, 5 |
| カラスザンショウ | 6 |
| フサザクラ、ヤマウルシ、ケヤキなど5樹種、6本 | |

() 内は本数



植樹木と自生木の共生の状況

下刈りを控え侵入する自生木の除去を徹底しなかったユニット(2009B)で、100m²のコードラートで調査をしたデータが(表-4)である。植樹木は樹高8mのヤマグリ、6mのオニグルミなど10本が生育し、一方、自生木は、ミズキ8m、ウワミズザクラ、カラスザンショウなど5m以上が10本ほか、フサザクラ、ケヤキなど計10樹種19本が生育しており、植樹木と自生木が共存する森林が実現しつつある。また、2010Bにおいては(表略)植樹木は樹高2mのコナラが5本が残存するのに対して自生木は、イヌシデ、ヤマザクラ、ウワミズザクラなど10m以上が5本、5m以上が16本、合わせて22樹種112本が生育しており、植樹木は自生木に圧迫され将来は自生木のウワミズザクラなどの多様な樹種が優先する林になると考えられる。

間伐後の自然推移区の更新状況・埋土種子の種数

2009、2010年植樹地の隣接地は同時期に間伐が行われ、植樹対象外として自然の推移に任せて9年が経過した区域である。ここでの自生木の侵入による更新状況のデータが(表-5)である。上木ヒノキの環境下で、ヤマザクラ9mを筆頭にウワミズザクラ、イヌシデなど26樹種、62本が生育している。同様に調査した他の区域では(表略)、アオハダ、ミズキ、ウワミズザクラなど10m以上が26樹種、60本が生育していた。間伐から8年しか経っていない中で、更新上層木は7~10mを超え閉鎖樹林を形成しており、自然林の復元が達成されつつあると思われる。植樹しなくても多数の潜在自然植生による更新が可能であり、生物多様性の面からも優れていると考えられる。

また、2013年度植樹地においてどのような自生種が生育しているか調査したところ、100~200種の植生、そのうち高木は41種(植樹木は14種、以外は27種)が確認された。

表-5

10A隣接地(間伐後9年)

| | |
|--|--------------------|
| 保残木 (ヒノキ2本) 169m ² /ha | |
| ヒノキ | 18, 15 |
| 自生木 (26樹種、62本が生育) 30m ² /ha | |
| ヤマザクラ | 9, 8 (2) |
| ウワミズザクラ | 8, 5 (2), 4, 2 (2) |
| イヌシデ | 8, 4, 2 (2) |
| アオハダ | 7, 4 |
| マルバアオダモ | 7, 2, 1 |
| ハクウンボク | 7, 1 |
| クマノミズキ | 6 |
| アカシデ | 9, 8 (2) |
| イイギリ | 5, 2 |

このほか5m以下で、ミズキ、クマシデ、ツノハシバミ、エンコウカエデ、イロハモミジ、アオダモ、アサダ、イヌエンジュなど17樹種、33本が生育

調査を通じて確認されたこと

植樹による広葉樹林の育成が可能であること、ユニット植樹を行うことで生育の遅い樹種でも成林でき、多様な樹種による混交林造成に有効であることが確認できた。

初期成長の極めて高い樹種は、環境効果とともにバイオマス資源として有望であることがわかった。

20~30年程度の短伐期サイクルでの更新は、攪乱による生物多様性の効果も期待できると考えられる。

初期成長の遅い樹種では、植樹後の下刈りを控えめにする事で侵入自生木と共存が図られること、また必ずしも植樹しなくても自然の更新力を活用した混交林の育成が可能であることが確認できた。

アオキ



アオキ(青木)は日本原産で四季を通じて枝と葉が青いことからの命名といわれる。

乾くと葉が黒色になるのは葉肉内にあるアウクビンのためという。花は4月から5月、果実は12月に成熟し鮮紅色となる。半日陰を好み、耐寒性がある。熟した果実から取り出した種子、挿し木で育成する。茎は苦味、健胃作用があり、葉は腫れ物、切り傷などの保護消炎作用もあり、生葉をあぶったものを患部に貼り薬用とする。(画:横川信由)

「高尾の森と生き物たち」展を開催しました。

「高尾の森と生き物たち展」をTAKAO 599 ミュージアムにて、3/24(土)～4/1(日)まで9日間開催しました。

事前に京王ニュース、新聞への掲載、パンフレットの配布、駅構内のポスターなどで案内をしておりまして、入場者は1678人と盛況でした。(昨年は7日間で1123人、160人/1日。今年は190人/1日)

子供さん達の春休みの期間でもあり親子、一般の方々や高尾山帰りの方々など、午後1時から3時ごろにかけての時間帯に多くの方々を訪れました。

今年新たにキッズコーナーが設けられました。木のサークル内に木製の積み木が多数置かれ、お子さんたちに大人気でした。積み木パズルも親子で楽しみ、滞在時間も長く、皆さんに喜んで頂きました。

受付では、高尾の森へのお誘いパンフレットや日本山岳会が関わる全国育樹祭のパンフレット、日比野さん提案のヒノキの削り片の袋詰めを配布し、木の香りを感じてもらいました。

1 木工製品の展示説明&キッズコーナー

(担当 物作り班の方々)

- ①木工製品(本立て、ペン立て、動物模型、拍子木、積み木パズル等)
- ②キッズコーナー(積み木を利用した遊び場)



2 高尾の森づくりの会の活動写真の展示説明

(担当 召田さん、茂出木協子さん)

- ①会の年間を通した様々な活動写真
- ②森の体験イベント
- ③支援活動(気仙沼、ラオス、三宅島プロジェクトなど)
- ④高尾の森の花々の写真
- ⑤哺乳類、鳥類やシカの生息状況



3 横川コレクションの展示説明

(担当 横川さん)

- ①小動物(モグラ、ヒミズ、) 昆虫、ヘビの抜け殻、ハチの巣
 - ②シカ、ウサギ、アナグマなどの頭蓋骨標本
 - ③鳥類の巣や面白い石、化石
- *展示物を手に取り触ることができて喜ばれました。

4 高尾の森の生き物たち

(担当 山崎)

- ①高尾の森のドローンによる空撮映像
- ②哺乳類16種&鳥類の映像観賞&説明
(映像編集は十河さんにお願ひしました)
- ③高尾の森の哺乳類の経年・季節変化のデータ説明
- ④シカの生息状況(シカやカモシカが急激に増えている)の説明

5 季節の彩り 高尾の森の紹介ビデオ

(茂出木協子さん作成)

599 ミュージアム1階で、ノートパソコンにて常時放映しました。



期間中多くの方々スタッフが参加くださいました。お疲れ様でした。

25名(延べ60名)

吉川代表、松川事務局長、小木曾副代表、相澤篤さん、宮本さん 召田さん、茂出木協子さん、山崎(喜)さん、本山さん、白井さん 小南さん、松田さん、見留さん、小川さん、小山さん、小口さん 廣瀬さん、松川(信)さん、佐々木さん、安藤さん、矢吹さん、関さん 三葉さん、横川さん、山崎

〈寄稿〉

ハチ対策 について



森の安全を考える会 森中大晴



4月も半ばを過ぎると、フィールドのあちこちで、アシナガバチ、スズメバチが花を訪れたり、草木の葉の周りをなにかを探すかのように飛び廻ったりする姿をみかけます。この時期のアシナガバチやスズメバチは初期の単独巣期です。春先に越冬から覚めた女王バチは単独で巣作り、幼虫への餌やりなど一切自分で行い、コロニーを育てていきます。この時期に刺されることはあまりありません。

しかし、5月終わり～6月中旬にかけて働きバチが出てくるとコロニーの防衛反応は一気に上がり、巣へのちょっとした振動でも働きバチは敏感に反応し警戒行動に出ます。この時、素早い動きをすると反応し、刺されることとなります。



刺されない様にするためには

次の8箇条を心がけると刺されにくくなります。①いたずらに巣を刺激しない、②急な動きをしない、③黒っぽい服を避ける、④ひらひらとした服を避ける、⑤革製手袋の着用、⑥防虫ネット(防護服)の着用、⑦前日の深酒・寝不足を避ける。そして⑧むやみに駆除しない・巣を隔離する(半径約5m範囲をロープで囲み、ハチの巣があることを表示)。



刺された時は

ハチに刺された時は、①周囲に知らせてハチの巣から遠ざかる、②毒の除去、③医療機関の受診の3ステップを行います。

①刺された人は「ハチに刺された!」と大きな声で周りにいる人にハチの存在を知らせ、二次災害を防ぐと共に、救助を要請します。

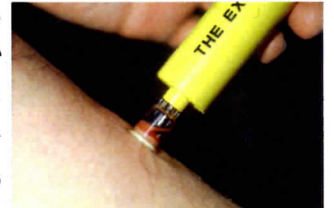
次に、周囲を見渡して自分を刺したハチはどこにいるのか、また、そのハチはどこから来たのか(巣の場所)を確認し、ハチがまだ取り付いている場合(アシナガバチやスズメバチは何度も刺します)は叩き殺してください(取り付いている腕や脚を振ると、その動きに反応して他のハチに刺されます)。

そして、巣とは逆方向に素早く、ゆっくりとした動作でその場から離れます。

②毒の除去を行う際は、ハチに刺された箇所がどこに幾つあるか確認します。

この時合わせて受傷者が過去に刺されたことが無いか、アナフィラキシーショックまたはハチ毒抗体が無いかを確認します。エピペン®(アドレナリンの自己注射器)を持っている場合は、このタイミングで自己注射しておきます。

ポイズンリムーバー(毒吸い出し器)でハチ毒を体外へ吸い出す際は、約1分間の吸引を3回以上続けて実施します。すると血液と一緒に毒を体外に吸い出すことができます。なお、ポイズンリムーバーが無い場合は、手で絞ridすか、流水下で流し出すようにします(ハチ毒成分は水溶性のため効果があります)。なお、決して口では吸わないでください(毒が口腔内から吸収されてアナフィラキシーショックをおこす可能性があります)。



これらの処置中は受傷者を常に観察します。突然黙り込む、よだれを垂らす、脱力などのいつもとは違う症状を見たらアナフィラキシーショックを起こしている可能性が高く、心肺停止状態に陥る危険があります。呼びかけや普段の呼吸が認められない場合は、直ぐさま胸骨圧迫などの心肺蘇生処置を行い、合わせて救急車の出動要請も行います。

③応急手当を行った後は必ず医療機関の受診を行います。アナフィラキシーショックは遅れて発症するタイプもあります(～2週間)。現場から病院までの搬送は必ず付き添って単独では行かせないようにします。

なお、受傷後3～4週後にハチ毒抗体ができていないか確認すると安心です。

※ハチ対策の詳細については、ブログの「森の安全を考えてみる」を見ていただくか、例年6月の第1土曜日に開催

2018年度 定時総会のお知らせ

代表 吉川正幸

当年度の定時総会は、6月16日(土)午後、JR豊田駅に近い富士電機能力開発センターにおいて開催します。

第一部では、高槻 成紀先生(プロフィール参照)をお呼びして講話していただきます。多彩な興味あるお話を伺えるものと期待しております。

また、総会の後には懇親会を開催する予定ですので、出席されるようお願いいたします。

改めて、全会員にご案内と総会議案をお送りします。やむを得ずご欠席される方は、書面による議決権行使を行うか、委任状を返送されるようお願いいたします。

日程：6月16日(土)

会場：富士電機能力開発センター

(日野市富士町1番地、JR豊田駅徒歩5分)

スケジュール 13時開場

第一部(13:30~14:50)

特別講演会「森と動物たちのかかわりについて」(仮題)

講師 高槻成紀先生

(麻布大学いのちの博物館上席学芸員)

第二部(15:00~16:30) 平成30年度定時総会

議案審議

平成29年度事業報告及び決算報告、幹事及び監査役の選任

報告事項

平成30年度事業計画及び予算の報告、予定等の発表など

第三部(17:00~18:00) 懇親会

総会議案及び総会報告については、6月初旬までに全会員に郵送します。総会の成立要件は昨年の規約の改正によって会員数の3分の1以上となりました。欠席される方は必ず、書面による議決権行使をするか委任状を提出してください。

高槻成紀先生プロフィール(ホームページより)

1949年鳥取県出身。1978年東北大学大学院理学研究科修了、理学博士。東北大学助手、東京大学助教授(1994-2007)、教授(2007)、麻布大学教授(2007-2015)を歴任。現在は麻布大学いのちの博物館上席学芸員。専攻は野生動物保全生態学。ニホンジカの生態学研究を長く続け、シカと植物群落の関係を解明してきた。最近では里山の動物、都市緑地の動物なども調べている、一方、スリランカのアジアゾウ、モンゴルのモウコガゼル、タヒ(野生馬)、モンゴル草原の生物多様性などの研究もした。

法人紹介
(特別協賛企業)



変化する山、高尾山

京王電鉄株式会社

広報部 企画・環境担当課長 加藤 潔英

京王沿線を代表する自然はというと、高尾山か多摩川を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。実は高尾線(北野~高尾山口間)が開通したのは、線路が多摩川を越えた大正14年から少し間が空き、昭和42年頃です。観光路線として開通して以降は、地域の発展に寄与してまいりまして、近年ですと隈健吾氏デザインの駅舎誕生、温泉施設の開業、毎年恒例の冬そばキャンペーンなど、様々な施策も実施してまいりました。また当社だけではなく、地域の様々な方の活動が実を結び、ミシュラン三ツ星の評価を獲得など、今や高尾山は世界的に名前が知られています。

その間社会は、大量消費社会からのパラダイムシフトが起こり、モノ消費からコト消費、シェアリングエコノミーの勃興、持続可能な社会を目指す必要性など、様々な概念が変わりました。人や企業と同じく、そうした社会変化に対応し高尾山も変容するとしたら、どのような「山」になるのでしょうか。

高尾山が持続可能であるためには、自然のあり方や交通インフラのあり方はもちろん、そこで行われている諸活動を担う人の課題など、社会から求められる「山」とは何かを考え、来る人にとって多様な意味を持つ「山」になる事が必要なのではないのでしょうか。

共催させていただいております「高尾の森親子森林体験スクール」は、都心回帰の傾向がある子育て世帯に対して環境教育を行う事に加えて、遠足以外で高尾に来るきっかけを提供し、おかげさまで18回を数えるまでになりました。

遠足のような学校単位の大量消費的な体験から個別の体験が出来る「山」、単に遠足で年に一回来る山ではなく人との繋がりがりなどから来訪する意義がある「山」。そうした新しい「山」としての価値を提供できるよう、事業・CSR両側面から当社も引き続きこの高尾エリアに参画していきたいと思っております。



2017年度 幹事会報告 (抜粋)

3月度 幹事会

3月5日 18時30分～20時30分

会場／立川市女性総合センター
会議室

参加人数／幹事12名 監査役2名
オブザーバー 3名

議長／代表

書記／小川

議案 事項

1. 総会
(1) 役員改選について (代表)
(2) 講演会講師について (代表)
(3) 議案書作成について (小山幹事)
(4) 予算・業務監査について (湯川副代表)

協議 事項

1. 中長期等検討委員会中間報告 (事務局長)
2. 三宅島緑化再生プロジェクトの今後について (石井リーダー)
3. 全国障害者全国大会の後援について (代表)

報告 事項

1. 599 ミュージアム展示会 (事務局)
2. 都有林 (日比野幹事)
3. 普及教育 (大森幹事)
4. 第三回育樹祭 (小山幹事)
5. 森林管理署動向 (馬場副代表)

4月度 幹事会

4月9日 18時30分～20時10分

会場／立川市女性総合センター
会議室

参加人数／幹事13名 監査役2名
オブザーバー 3名

議長／代表

書記／松川

議案 事項

1. 2017年度実績速報、2018年度予算案
(湯川副代表)

協議 事項

1. 総会 (事務局長)
(1) 講演会……高槻成紀先生に決まる。
(2) 議案書……4/15までに小山幹事まで提出のこと。
(3) 役員改選……資料「総会での幹事候補者の選任について」
2. 第三回育樹祭……資料「第三回育樹祭」招待者、スケジュール、参加企業等

報告 事項

1. 599 ミュージアム展示会報告 (小木曾副代表)
2. 寄付について (事務局長)
3. 署への対応動向 (馬場副代表)
4. 平成30年度に向けた調査の実施 (事務局長)

4月度 臨時 幹事会

4月23日 18時30分～21時15分

会場／立川市女性総合センター
会議室

参加人数／幹事12名 監査役2名
オブザーバー 1名

議長／代表

書記／松川

審議 事項

1. 総会関連
(1) 2017年度事業報告の検討 (各担当)
(2) 2017年度収支決算の検討 (湯川副代表)
(3) 2018年度役員 (代表)
(4) 2018年度事業計画 (各担当)

報告 事項

1. ベーストイレ用ビニールホース撤去について
(馬場副代表)

5月度 幹事会

5月7日 18時半～21時30分

会場／立川市女性総合センター
会議室

参加人数／幹事13名 監査役2名
オブザーバー 3名

議長／代表

書記／松川

協議 事項

1. 総会議案書の検討
(1) 第一号議案 (事業報告)
(2) 第二号議案 (収支決算報告)
(3) 第三号議案 (役員改選)
(4) 報告事項 (事業計画)
2. 総会スケジュール
(1) 議案書作成スケジュール
(2) 総会当日のスケジュール
(3) 総会式次第
3. 署との情報交換 (馬場副代表)

滋慶学園森林体験教室に参加して

日向 一人



4月になると滋慶学園ドルフィン科の学生たちが高尾の森にやってきます。

山は海の恋人。海を知るには山を知る必要があるとの考えで同校講師でプロ山岳ガイドの中川武先生引率のもと、入学約一週間後、お互いの顔と名前がまだよく一致しないような状態で、小下沢のフィールドを授業の一環で訪れるのです。

体験学習は生態観察、木工作業、景信山登山のメニューで構成されます。

自然生態観察は小下沢梅林からベースまでの道中、生態調査班が高尾の森の豊かな自然を紹介して歩きます。学生たちは聞いた話を熱心にメモします。そのわけは、本体験学習後レポートを提出する必要があるからです。

ベースに着くと班の指導で丸太切りとコースター、箸作りです。のこぎりを使ったことがない子も多く、新鮮な気持ちで時間を忘れて楽しんで取り組みます。そして景信山登山です。一般登山者向けのコースではなく、高尾の森の作業道、通称“アドベンチャールート”から急斜面を一気に登ります。登山経験がなく、靴擦れなどで歩けなくなる子もいます。そういう時に周りの子たちは荷物を持ってあげたり、声を掛けたりして励まします。そうすると仲間の応援に応えようと頑張り、全員山頂に立つことができるのです。そして、こうした経験をすることで、友情が生まれ、帰るころにはクラスの一体感が出てきます。

昨年、高尾の森で体験学習を行った同校卒業生が水族館のイルカショーで活躍する姿を見学する機会がありました。イルカと息の合った演技で大勢の観客を魅了する、堂々たる演技と成長ぶりに驚くとともに感動した次第です。

高尾の森の多くの若者の成長をお手伝いできる活動を今後もサポートさせていただきたいと思ひます。



学園での出前授業を終えて

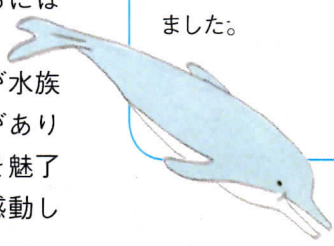
「森は海の恋人」

松隈 茂

海は森が大好きなんです。海と森林とは繋がっている。森林地帯の鉄 Fe++ 等の養分は、『葉から出来る腐葉土に含まれる』フルボ酸に吸着され、『雨水に溶けて』川から海に流れ込んで来る。海では、これらの養分を得て、海草、プランクトンが育ち、それらが、魚や貝の食料となって循環する。『生態系食物連鎖』です。

私は、これらの話に目を輝かせて聞き入ったり、考えたりの生徒さんの受講態度に感激しました。

本コースの生徒さんは（入学間もない授業の熱心で前向きな雰囲気から）実り多い学生生活となることが予感されました。



「孫娘が参加の体験教室」 を参観して

召田俊雄

今年も4月と5月に滋慶学園の学生が高尾に大挙してやってくる。

都会では味えない経験をたっぷり楽しんでもらおうと、「高尾の森づくりの会」が毎年企画している春の行事だ。学生たちの色とりどりの服装で作業小屋のまわりは花が咲いたようになり、待ち受ける会員たちは大張り切りだ。『日に焼けるとかわいそうだ』と申し合わせ、小屋の周囲にブルーシートの天幕を張ってあげたのは大成功だった、と自画自賛。



学生たちの様子を

以下に紹介しよう。

- スタッフに迎えられ大喜び。作業小屋にようやく到着だ。
- 『この木札、格好いいわ』と早速名前を書き込む。
- 『そうそう、手前に引くときに力を入れるとうまく切れるんだ』とおだてられ真剣そのもの。
- 箸作りにおっかなびっくりだ。危ないからと家でも学校でも小刀は禁止されて育った世代だから無理もない。
- 『グラインダーで磨くと、ほら、こんなにきれいに仕上がるだろう』、とスタッフの声に熱がこもる。



私のお気に入り

「タブノキ」

島田 正義



私は勝手に、
この公園の大木こそ
北限と認定して、見上げてきた

「私のお気に入り」といえば、まず、持ち物になるが私にはこれといったこだわりの物が無い。そこで、題材を広げてみた。家の近くの散歩コースに県立保土ヶ谷公園があり、そこに目通り周囲2.4m、高さ2.2m強のタブノキが生えている。樹齢200年は超えているという。三宅島緑化再生PJの際、知ったのだが、暖温帯林の代表的な広葉常緑樹だそうで

す。「樹霊」という本で、尾崎一雄が小田原市城山の光円寺に県の天然記念物の老樹があって、樹高15m、太さは目通りで5m、そしてこのタブノキが大樹として、北限だろうと書いてあった。それで私は勝手に、この公園の大木こそ北限と認定して、毎日のように見上げてきた。しかし調べてみると、北限は津軽深浦。インターネットなど無かった時代の

こと、この作家は適当に書いている。ちなみに横浜市内だけでも名木・古木として登録されているもので979本、タブノキはケヤキ、イチョウ、クスノキに次いで67本もあるという。一番大きいのは旭区西川島の嶋崎金子稲荷社にあるタブノキでプレートには、胸高周囲6.25m、樹齢は840年(320年とも)、樹高は21.3mとある。とにかく太い。でも江戸の横綱より故郷の三段目の髷でもあるように、私にとってはこの公園のタブノキが一番お気に入り、いつもこの木の下に立ち元気をもらっています。

視覚障害者登山大会の ボランティア募集

大橋基光

平成30年10月7日(日)に、東京都八王子市の高尾山において、視覚障害者全国交流登山大会が開催されます。第16回となるこの大会を成功させるため、高尾の森づくりの会の皆様に運営支援のボランティアとして参加、又は、ご寄付をお願い申し上げます。

私の属する「六つ星山の会」は、長い間、視覚障害者登山を支援してきました。本年は、当会が主幹して、高尾山において、「全国に広げよう視覚障害者登山仲間の輪」をテーマに秋の第16回大会を開催することになりました。視覚障害者が登山を楽しめる環境を整えるために活動している全国の視覚障害者登山の団体が、より多く集い交流する場とするとともに、障害があっても山に親しむことの素晴らしさを多くの人々に伝えることを目的として開催します。

ボランティア参加ご希望の方は、7月末までに、下記の宛先に葉書または封書にてお申し出ください。大橋または吉川代表まで直接お知らせいただいても結構です。

104-0081 千代田区四番町 5-4

公益社団法人日本山岳会

「高尾の森づくりの会」あて

ご寄付は、9月末までに日本山岳会の寄付の郵便振替口座である、

ゆうちょ銀行 記号番号00180-4

口座番号764707

「日本山岳会寄付口座」まで「六つ星山の会」または「視覚障害者全国交流登山大会」への指定寄付として、一口6千円をめどに、お振り込みいただくようお願い申し上げます。確定申告をすれば、ご寄付額の最大40%の所得税・住民税が減額されるとのことです。

事務局からのお知らせ

主な作業・行事記録

| | | |
|---------|-------------------------|-----|
| 2/16～18 | 三宅島緑化プロジェクト | 27名 |
| 2/24 | 機械作業実践講習会 | 11名 |
| 2/24 | 臨時作業 | 19名 |
| 2/25 | 都有林プロジェクト | 20名 |
| 3/3 | 滝山公園整備 | 7名 |
| 3/10 | 定例作業日 88名（個人会員67・法人会員5） | |
| 3/17 | 臨時作業 | 10名 |
| 3/24～ | 599ミュージアムにて | |
| 4/1 | 「高尾の森と生き物たち」 | 60名 |
| 3/24 | 都有林プロジェクト | 15名 |
| 3/24 | 臨時作業 | 4名 |
| 4/14 | 定例作業日 | 74名 |
| 4/15 | 育樹祭（中止） | |
| 4/21 | 滋慶学園A | 47名 |
| 4/22 | 親子第一回 | 45名 |
| 4/28 | 都有林プロジェクト | 13名 |
| 5/12～13 | みどりとふれあうフェスティバル | |
| 5/12 | 定例作業日 | 68名 |
| 5/13 | 親子第二回 | |
| 5/19 | 滋慶学園B | |
| 5/26 | 都有林プロジェクト | |

ものづくり・小屋管理班 (安藤リーダー) 生態調査班 (千谷リーダー) 哺乳動物生態調査班 (山崎リーダー)

毎週
木曜日

第三
土曜日

第一
水曜日

毎週
木曜日

入会
のご案内

ホームページ ● <http://jactakao.net/>
問い合わせ先 ● メールアドレス sxyqw679@yahoo.co.jp
● TEL 042-644-6970 (松川宛て)

今後のスケジュール（予定）

| | |
|---------|---------------|
| 6/9 | 定例作業日 |
| 6/10 | 親子第三回 |
| 6/16 | 定時総会 |
| 6/22～24 | 三宅島緑化再生プロジェクト |
| 7/14 | 定例作業日 |
| 8/11 | 定例作業日 |

会員動向

退会 お疲れさまでした。

井草真由美さん 井草宜一さん

伊藤順子さん 川越尚子さん

永井智子さん 濱島 勇さん

原洋子さん 原恵一さん 三浦 仁さん

山岸正克さん 山田信和さん（3月末）

入会 ようこそ!!

佐久間文夫さん 渡部俊文さん（4月）

三宅島緑化再生プロジェクトのご案内

日程 ● 6月22日（金）～24日（日）
（21日夜出発）

申し込み ● 石井リーダー（小南サブ）まで
m-ishii@kpe.biglobe.ne.jp

寄付

京王電鉄さん、京王百貨店さんから多額のご寄付をいただきました。ありがとうございました。

2018年度年会費

未納の方は早めに振り込み願います。



編集後記

だれもが爽やかと感じる季節となりました。直ぐに暑くなるような気もしますが季節の変わり目は何か新しいことを始めてみたいものです。まもなく高尾の森づくり会の総会があります。会員全員で会の方向性や楽しく活動ができる体制を考える、変革する機会としたいものです。（小山圭司）

